

原水爆禁止 2021 年世界大会参加予定海外代表のプロフィール

2021 年 7 月 21 日現在
世界大会実行委員会事務局 国際部

原水爆禁止世界大会－国際会議 8 月 2 日

ジャッキー・カバソ（西部諸州法律基金 事務局長／平和首長会議顧問 アメリカ）

カリフォルニアでのベトナム戦争と原発反対運動を通じて、核兵器廃絶運動に参加。1995 年に発足した国際的な核兵器廃絶運動ネットワーク「廃絶 2000」の「創立の母」。核兵器禁止・廃絶を求める全米の運動と国際的な活動をけん引してきた。平和首長会議の北米コーディネーターを経て、現在相談役。2008 年に IPB ショーン・マクブライド平和賞を受賞。



デイブ・ウェブ（核軍縮キャンペーン=CND 議長 イギリス）



ヨークシャー州リーズ在住。リーズ・ベケット大学で工学と平和・紛争学の教授の職にあった。35 年にわたって CND で活動し、副議長を経たのち、2010 年からは議長。宇宙への兵器と原子力配備に反対するグローバルネットワークの議長も務めている。2015 年世界大会に参加。

CND は 1958 年以来イギリスで核兵器廃絶運動を進めてきた団体で、現在はイギリスのトライデント核兵器システムの廃棄、核兵器禁止条約への参加を求めて活動している。

オレグ・ボドロフ（フィンランド湾南岸公共評議会／映画監督 ロシア）

1976 年レニングラード工科大学で工学・物理学を学んだ後、原子力潜水艦の試験に携わる。1986 年にチェルノブイリ事故後の汚染地帯を訪問した後、原子力業界から離脱。環境保護運動に加わり、ロシアの原発の安全な廃炉と放射性廃棄物の最終処理を求める NGO で活動。ロシアの核開発が引き起こした多くの健康被害、原発の使用済み核燃料から生じる北ヨーロッパ全体の汚染などについて告発する映画を製作してきた。（「不毛の地」、「ハンヒキヴィ」は原水協が日本語版を製作。）2010 年に「核のない未来賞」を受賞。



ルド・デ・ブラバンデル（「平和」グループ ベルギー）

「NATO ノー」ネットワークの国際調整委員会メンバーを務めている。ブリュッセルで 2017 年と 2018 年に行われた NATO 対抗サミットの主催者。NATO と軍事化、中東とクルド問題についての著作がある。定期的に中東を訪問し、多くのメディアに記事や論文を書いている。



ジョゼフ・ガソン（平和・軍縮・共通安全保障キャンペーン=CPDC 議長 アメリカ）



長年、アメリカフレンズ奉仕委員会の経済安全保障プログラム責任者をつとめたのち、CPDC を設立。国際平和ビューロー副会長、平和と地球国際ネットワークの共同議長もつとめている。核兵器廃絶、大国間の緊張、在外米軍基地、国防支出問題に焦点を当てて米国の外交・軍事政策への平和で公正な代替案を組織し啓蒙している。2020 年 4 月に行われた世界大会 NY（オンライン）の組織責任者。「帝国と核兵器」「ザ・サン・ネバー・セツツ：世界を覆う米軍基地」などの著書があり、アトミック・サイエンティスト誌、ボストン・グローブなどに多くの記事が掲載されている。原水爆禁止世界大会には 1985 年以來、ほぼ毎年参加。

イ・ジュンキュ（韓神大学統一平和政策研究院前任研究員 韓国）

現在国際平和ビューロー運営委員。2003 年～2010 年、平和ネットワーク（NGO）政策室長と運営委員。2008 年～2009 年明治学院大学に留学。核関連問題、南北朝鮮関係、東アジアに関して多くのメディアにコラムや記事を執筆し、民主労働党、新進歩党、緑の党など、韓国の革新系政党の政策作りに関わった。2019 年ソウルで開かれた「非核・平和のための日韓国際フォーラム」の韓国側統括責任者。原水爆禁止世界大会、3・1 ビキニデーに何度も参加。



ドン・フィ・クオン（ベトナム平和委員会事務局長）

ベトナム平和委員会とベトナム平和開発基金の事務局長を務める。ジャーナリズムを専攻し 2012 年から社会運動家として活動。アジア・ヨーロッパ人民フォーラムの国際組織委員会メンバー兼地域組織委員会メンバー。平和教育、戦争犠牲者への支援、核兵器・大量破壊兵器の廃絶に尽力。2013 年以來、原水爆禁止世界大会に参加。



アチン・バナイク（核軍縮平和連合 インド）

デリー大学「国際関係とグローバル政治」の元教授。インドの外交政策や、地域と世界の核軍縮に関する研究についての著書がある。1998年のインド核実験後に核軍縮平和連合（CNDP）を創立。アムステルダムの特ランスナショナル・インスティテュート（TNI）特別会員。2000年IPB ショーン・マクブライド平和賞を共同受賞。

原水爆禁止世界大会ーヒロシマデー集会 8月6日（金）

アレクサンダー・クメント（オーストリア欧州統合外務省軍縮軍備管理不拡散局長／大使）

2014年世界大会にオーストリア軍縮大使として初参加。同年12月のウィーン「核兵器の人的影響に関する国際会議」組織責任者を務める。核兵器禁止条約に関する国連ワーキンググループの議論をリードし、2017年の国連核兵器禁止条約交渉会議の開催と同条約成立の原動力となった。来年ウィーンで開催される核兵器禁止条約第1回締約国会議の議長に就任予定。



ベアトリス・フィン 核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）事務局長



スウェーデン・ヨーテボリ生まれ。同世代の移民や難民と接するなかで国際情勢に関心を高め、ストックホルム大学で国際関係を専攻、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンで国際法の修士号を取得。2009年にジュネーブの婦人国際平和自由連盟（WILPF）にてインターンシップに参加。翌年 WILPF に人権活動家として入職し、軍縮問題を担当。2014年、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）に移籍し事務局長に。ICANが2017年ノーベル平和賞受賞し、同年12月10日授賞式で演説。2020年世界大会に続いての参加。

カルロス・ウマーニャ（核戦争防止国際医師会議=IPPNW 共同会長 コスタリカ）

2021年より現職。コスタリカ IPPNW の議長。産婦人科医師としてプライマリーケアと特殊ケアに従事した経験から、コスタリカ保健省の医療局長を務めた。医師であるだけでなく、コスタリカ大学で美術を専攻し、現在は医療翻訳者・ビジュアルアーティストとしても活動している。コスタリカ外務省ほか、核軍縮問題に取り組む地方、地域、世界的組織と緊密に協力して活動している。2020年4月に開かれた原水爆禁止世界大会 NY（オンライン）、2020年世界大会・長崎にスピーカーとして参加。



ロラン・ニベ（フランス平和運動 全国書記）

レンヌ在住。ブレストにある仏海軍原潜基地前でヒロシマデー行動、NATO ノー行動を毎年組織してきた。フランスの核兵器禁止条約参加を求める活動をけん引。2017年日本原水協ヨーロッパ被爆者遊説団のフランス側コーディネーター。1995年以来、2020年を含め世界大会に何度も参加。

原水爆禁止世界大会—ナガサキデー集会 8月9日（月）

サイエド・ハスリン・アイディド（国連マレーシア政府代表部常駐代表／国連大使）



2019年7月より現職。2019年春に開催された2020年NPT再検討会議第3回準備委員会で議長を務め、被団協代表から「ヒバクシャ国際署名」を受け取った。2019年7月に来日し、原水協を含む日本のNGO代表と懇談。2020年世界大会長崎デー集会に参加し発言。次回NPT再検討会議で、NPTの三本柱のうち核軍縮問題を扱う主要委員会Iの議長に就任予定。2020年世界大会に参加。

メルバ・プリーア（駐日メキシコ大使）

1958年連邦直轄区（メキシコ市）生まれ。社会学士。戦略的計画と公共政策を専攻し、それぞれの修士号を取得。大学院で国家安全保障及び戦略的研究を学ぶ。SRE（対外関係省）での長いキャリアを有しており、これまでに、在イスラエルメキシコ大使館政治部、領事部勤務（1979-1982）、メキシコ社会保険庁出版局 編集部長、文化振興部長（1983-1991）、外務大臣顧問（1991-1992）、国営航空会社の民営化プロセスに参画。渉外・イメージ・トレーニング部門の再編に従事（1992-1994）、SEP（公共教育省）チアパス駐在特別出張所 所長（1994-1998）、INI（国立先住民庁）長官（1998-2000）、在外メキシコ人コミュニティ局長（2001）、SRE（対外関係省）全国州政府連邦政府間連絡局長（2002-2003）、SRE（対外関係省）市民団体応接局長（2003-2007）、駐インドネシア大使（2007-2015）、駐インド大使（2015-）を歴任。2019年、2020年世界大会に続いて参加。



フィリップ・ジェニングズ（国際平和ビューロー=IPB 共同会長）



イギリス・ウェールズ出身。サービス産業労働者を組織するUNIグローバルユニオンの書記長を2000年から2018年まで務め、2010年にはUNI世界大会を長崎で開催。広島市・長崎市から平和特使の称号を授与され、長崎の高校生をジュネーブに招くなど、労働運動の中で反核平和の課題を強調し、特に長崎と強い絆がある。2019年にIPB共同会長に就任し、労働運動と平和運動の共同に情熱を傾けている。2020年世界大会に初参加。

ティナ・エブロー（アジアヨーロッパ人民フォーラム 国際組織委員会委員）

フィリピン出身。アジアヨーロッパ人民フォーラムは、進歩的な市民社会諸組織、国会議員、知識人が、気候危機、平和、社会経済的正義、民主化など切迫した諸問題に取り組み活動する地域を超えたネットワーク。2005年以来、2年に一度の人民フォーラムを組織してきた。非核フィリピン連合の創立コーディネーターであり、フィリピン戦争ストップ連合の共同議長をつとめた。マルコス独裁の時期には、人権擁護と労働者の教育活動に尽力。1990年代後半にはヨーロッパで人道的な難民と亡命者保護政策を求める活動を行った。



ラルフ・ハチソン（オークリッジ環境平和連合=OPERA コーディネーター／核説明責任追及連合 理事 アメリカ）



テネシー州オークリッジにある Y-12 国家安全保障複合施設（広島原爆用の高濃縮ウランを製造）での核兵器生産停止を求めて活動している。核兵器生産が健康と環境に与える影響を扱う州と連邦政府の諮問委員会で委員を務めた。核説明責任追及連合の理事も務め、国連や米国議会ブリーフィングで核兵器複合施設に関して発言。

1 月 22 日の核兵器禁止条約発効を記念し、条約へのアメリカの参加を求める全米行動をよびかけ、組織の中心的役割を担った。国内での非暴力直接抵抗行動に参加するだけでなく、2007 年には広島での平和集会、2019 年には米国核兵器が配備されているドイツのビューヘル空軍基地での抗議行動に参加。テネシー州ノックスビル在住。今年の 3・1 ビキニデーで発言。

ルド・デ・ブラバンデル（「平和」グループ ベルギー）（P2 参照）

テーマ別集会 II: 沖縄連帯・外国軍事基地撤去 8月5日(木)

リサリンダ・ナティビダ (グアハン平和正義連合/グアム大学教授 グアム)



グアム大学社会福祉学教授。グアハン平和正義連合議長、グアハン先住チャモロ女性協会 (I Hagan Famalao'an Guahan) の創立メンバー。先住民チャモロに属し、米国の軍事植民地とされた母国グアハンとその人々に対する人権侵害を告発してきた。非軍事化、脱植民地化と、地域社会の安全と繁栄の創造に不可欠な女性の役割について、国際的な場で発言を続けてきた。国連第四委員会、同非植民地化理事会、先住民問題恒常フォーラムで、グアムの大規模な軍備増強反対の意見を述べた。グアム非植民地化委員会元メンバー。日本、フィリピン、アメリカ、ノルウェー、エクアドル、フィジー他の国々の会議で発言。現在 IPB 評議員会メンバー。

チェ・スンヒ (済州島カンジョン平和ネットワーク 韓国)

済州島への海軍基地建設と島の軍事化への反対がきっかけで平和運動に参加。「済州島第2空港(空軍基地になる見込み)反対」、現在済州で計画されている「国立衛星統合オペレーションセンター」反対運動にも参加している。カンジョン村の国際関係チームを担当。カンジョン平和ネットワークのほか、カンジョン村民済州海軍基地反対協会や、島民ぐるみの平和連帯組織「済州を非武装平和の島にする人々」でも活動。「宇宙の兵器と原子力に反対するグローバルネットワーク」の韓国代表。



ジョゼフ・ガーソン (平和・軍縮・共通安全保障キャンペーン=CPDC 議長 アメリカ)

(P2 参照)

テーマ別集会 IV: 非核・平和のアジアと運動の役割 8月7日(土)

キム・ジンヨン (社会進歩連帯=PSSP 政策・教育局長 韓国)



2019年5月の日韓平和フォーラム韓国側実行委員を務め、同年と2020年世界大会に参加。2008年世界金融危機の余波で起きた、大規模な整理解雇と立ち退かされた住民の死をきっかけに、学生運動を始める。大学卒業後、現在まで社会進歩連帯の常勤活動家として、反核平和関連活動と国際連帯事業を担当。社会進歩連帯は、資本主義の構造的危機の中でマルクス主義的代案を模索している。社会危機を加速させるポピュリズムの政治を批判し、連帯賃金・連帯雇用を媒介に労働運動を革新し、女性の権利実現と朝鮮半島・東アジアの非核平和を目指す社会運動を建設している。2019年から世界大会に参加。今年の3・1ビキニデーでも発言。

コラソン・ヴァルデス・ファブロス (非核フィリピン連合 事務局長)

弁護士。30年以上にわたって反基地、反核平和運動に関わる。現在「フィリピン戦争ストップ連合」共同議長。非核フィリピン連合は、原発を停止させ、在比米軍基地協定の拒否と撤去運動の中心を担った。外国軍事基地撤去国際ネットワーク調整委員会メンバー。「ノーニュークス・アジアフォーラム」と「軍事基地活動と環境正義に関する国際ネットワーク」のフィリピン担当コーディネーター。平和女性パートナーズ、発展を目指す女性行動ネットワーク(DAWN)、フィリピン基地汚染除去タスクフォース、フィリピン主要宗教修道院長協会女性とジェンダー委員会でも活動。



アヌラダ・チェノイ (アジア・ヨーロッパ人民フォーラム インド)



ジャワハルラル・ネルー大学国際関係学部の教授で、前学長。専門はロシア・中央アジア研究と安全保障、人間の安全保障、軍事化、外交政策、平和と紛争学、ジェンダー問題で、多くの著書、研究論文がある。アクション・エイド、アジアヨーロッパ人民フォーラム、女性と国際安全保障と平和などの市民社会組織で活動してきた。2020年世界大会に初参加。